



中村俊定文庫
文庫 18
693



叙



茅菴此景也
 人此視之可
 七也
 且之
 山田
 缺之
 於也

一巻の小冊と新修諸ノ規模をき
 在而巳作⁺りあ⁺りても⁺し⁺れ⁺り⁺形⁺の
 唯自⁺然⁺々⁺風流⁺不⁺拘⁺人⁺の
 此⁺と⁺集⁺成⁺也⁺此⁺は⁺免⁺々⁺不⁺思⁺む⁺つ⁺ひ⁺て⁺ふ⁺ま⁺は⁺れ
 興⁺あ⁺れ⁺ま⁺の⁺職⁺も⁺あ⁺る⁺里⁺

丈左



寛政八年春

丙辰忌辰



山政川人乃後や喜の風 関文公
 山極川水一節と極答む 泰古

一巻巻のあ⁺り⁺より⁺を⁺ま⁺り⁺名⁺度⁺と⁺ま⁺り⁺ふ⁺ふ

押 繚やん流⁺る⁺一⁺れ⁺系⁺白⁺婦 三千丈
 淡雪の二⁺こ⁺り⁺さ⁺ま⁺り⁺河⁺極 花 僊
 白⁺く⁺と⁺や⁺志⁺も⁺火⁺光⁺の⁺如⁺挽⁺い 僧 蓮 種
 朝⁺を⁺ふ⁺依⁺ん⁺中⁺心⁺の⁺喜⁺り⁺水 有 雅
 集⁺寺⁺に⁺極⁺ふ⁺つ⁺戸⁺れ⁺り⁺其⁺中 他 流

水。

あゝ橋獅子の跡は庭より

娘州子

痕のまを並れはくや川原

宇 繡

夕雲海苔瀧小波がぬく

馬 曹

まゝ浪のさくく斗う岸の角

繡 扇

雨ふれや露ふりけ 祝有

水 石

松坂

喜柳や夕雲雨をまゝ

滄 波

梅のまより葉おくれけり

佳 夕

四五本たけ小雲来りけり

汶 水

楯田

海養ふももろく 靉は梅を

西 山

うらむすや障子も靉は梅を

五 峯

山田

海のよや空は清く夕雲

坡 仄

用心の水溜は雨やま月 蛙

不 及

うらむすも月夜を成てまれ風

鶯 溝

紙のれまを林はまのむれけり

丘 高

風中の尾まをや葉の花 桃系

神 風 館

版喰ふ人のまよりまのま

青 阿

三

深きても物やおもひをよめる松半
切風の中程もあはれはつて
春の風浦州人の妻衣

白子

宇兆
棠宇
無曲

信州善光寺

鶯や春浪あまの形かゝる
雙六の徒多梅又る月夜
象を峰と雁や楓の山は
茶は庭一りかゝる
山の尻尻了おもしろ

希言
凡化
杜厚
如山
里由

ちあれ梅よま梅か答ふ
かあはれはつてあはれはつて
山吹や乞もつてあはれはつて
里の春あ梅うちあはれはつて
春雨や着たる移るあはれはつて

東改

草司
一董
素十
李洞
蜂二

雨けつくびうあはれはつて
先路人初子のうたを帯

文兆
猿左

浅茅せしれ 朝のこけり 雪は梅
月代や 隣子一重 小梅のほ
とのいそぬ人のさけり 妻忠月
梅ふく 朱のさき 舟の 流也
家門や 籬の 息より 初寒
川を 隔畑 打ちおれ 白雪 沖
上列木島
女塚
山行
風狂
玉村
巢籠
如淀
班雪
一至

海老忠 魚や 磯山 雉子 雨を 呼
くささけの ちり 海を 心 けり 志
似鳩
丈九

人あ 旅 糸 子 成 昔 ぞ 野 席 堂
春風や 妻一 寸 忠 子 旅 の 一
武州熊谷
松山
雪江
二川

あゝ 北 ぬ 糸 を 泥 ぬ り 梅 の 月
流 ち ぎ や 加 川 じ ゅ う ね る 妻 畑
遠州箕井
馬郡
百洲
去草

ふ 糸 不 見 て 居 人 不 けり 吾 れ 吾
く ず 書 け る 心 ぞ ち ゑ の 好 る 危
南都
三力
暖駕

吉盛水分

可翠

存木

叙風

巫席

孤洲

魚俵

巴光

廉来

和加今井

半別

日少

如

如水

新庄

かもしを

か

持

扇

足

一每菴

此れ神のまゝちるる福
下敷く急のおのこを絶く清道
つくとおとく輕風の乃くまを
此れ也不接心

林之立川石草道不喜子の風

小女松陽子一維子川啼

壁片がふれれおまを語込

との屋しる人度りく架

形多物る月れ夕中門立り

むーこれ形る利まふん

丈左

繡虎

左

虎

秋の好まらり〜高る片明

か〜を撥を挽存れ石白

夫持ぬんと人の根間〜

炎⁺居合よ肌のま〜

一とろ〜清涼ふれ 森中ら松

ちいさ〜舟小抱〜

か〜これ目志ろと揉て力涼

山梔子も折新い法沙

清塵中も先よ子をかい込

左

虎

左

虎

西日此晴不朝風志月也
噴瀟灑極や花のふちを
木を組法も春の音川
ふ伏れなつて下る夕
く此世の舞小娘を
そもく火よかおちたつて
海さるお吹のサ都降
籠中よのおとろふとた
神の物変れもや

左、鹿、左、鹿、左

櫛浩小人川虫形を建
投 烟肩よりつて月
折とつ家秋思もも秋の
麦飯小つ流法に秋麻
志もくと秋乃小雨の脊
松のそ乾思遠 かり川
何を追新くく山の
後嵐をきく 柳
ソをれを押しきく 埃 浪

、左、鹿、左、鹿、

お村九朝乃家富より
下る花の白きを汲みし
汲み取る忠子よ静き春

左、虎

まふ文おさゆ

若くもや松をさかんと焚きし
あしや岩も枯れも月ふし
雪をふりてまき川氷れ嵐ふ
雨風あすれまきや静き春

上毛沼田

木島

書 郊
紫 陌
玉 屑
青 岐

けき又雪の松糸ふゆのあは
序崎や霞あはれハまき月

浪花

七十六翁

升 六
旧 國

き啼や雪あはれむもまきのま
きゆれ柳又落し毎日まき
梅まきをやりしとまきの垣根を
葉れまきやまきまきまきまき
まき月まきまきまきまきまき
まき雨やまきまきまきまきまき

魯

白 圖
万 岱
羅 城
岱 青
騏 六
岳 輅

夕まればや二日の後れ初まらる
春風りあふせりけし像徴雪の形
いろうくれば木の芽もふれ桜うけ
宗派くはし海樞の月夜うけ
渡やありしとをれおまらる
時こゝと延書と浮くくく
春風やまぬ入に思けをうり
月夜物とくはえいあゝ林うけ
春雨や霧つむ星に夕うけ

素外 桂五 燕武 壽松 重羽 蛙聞 竹有 浦釣 湖龍

妻もやまのわのうくく
春のあけけあゝあゝ
けあけあゝあゝあゝ

敬枝 岱呂 良来

記中ゆをとの降ふを春の月

方明

株木割 ちまをくまのいさ

卧央

左川うくと欠ふあれうり春の雪

丈左

ナコヤ

念れはらふ山は似き多程は
 おもむ入るやこれ書も色猫の意
 念はてつ座をり雨あし
 新香や維其意うきうき
 秋深しとて言ふも心極く
 象死て胡蝶とちあはうし
 是まを松の志けしゆき
 大いハ念うられ小あう
 浪東中表を志心けし
 舞い

龜年
 曙イ
 大年
 眠丈
 奥雄
 楚分
 素角
 墨山
 光雲

尾高

きー一吃そ念く種のもも
 深れ秋を意ふつりり
 梅うをををけけけ
 念うそよを念を以より
 念はてつ座をり雨あし
 念の口や眼後をい
 念はてつ座をり雨あし
 念はてつ座をり雨あし

大魚
 方朔
 士峯
 裁巢
 玉扇
 英士
 弁二
 丈左

ヨコスカ

押ふ多車引り申ふ柳
 木のちあれ多虫代り成りり
 梅うまうりあうまうまう二月
 花尾藤干まきしうまうまう

帯 木 大 七 人 株
 如 阜

梅うまや只あうまうれまうり
 士朗

齒うまや目あうまうのうまうり
 是れは小柳まうりうまうり
 東都 鼠六 自橋

うまうりうまうりうまうり
 是れは小柳まうりうまうり
 坐 梅 竹 稚
 未 居 里 竜

梅うまや寒うまうりうまうり
 今うまうりうまうりうまうり
 池鯉鮒 烏 祖 風

追うれ卵あうりうまうり
 丈左

伊達撰田

川喜れ破網うる海辺に
見車
夕かたの志ま中をさるり
白鉄
水如る海を岸の末きこふ

途中

空をふくまき月夜と
律大

築館

少くもさそい候食の上
旭水
ほろろ家れ梅をさるり二月月
澤鷺

布川

茶ふまて帰れい路の梅さ
雲呂
梅えきそ雨めつじにゆく
来車

手戸

家燻る妻の影虹か
竹冠

保原

おもしられぬや梅をまれ
凡鳥
志業態人のありりり
不休

仙臺

白心ちまのまきも梅を
鐵船

あまのつゆはあまのつゆ
あまのつゆはあまのつゆ
あまのつゆはあまのつゆ
あまのつゆはあまのつゆ
あまのつゆはあまのつゆ
あまのつゆはあまのつゆ
あまのつゆはあまのつゆ
あまのつゆはあまのつゆ
あまのつゆはあまのつゆ
あまのつゆはあまのつゆ

折ハちるゝさゝり雨蛙

一無菴

燈よりむく君も似たり
黄よりれうらうらや
馬は疾くねを細く
扇折るを名をり
麦菜種を中よまの風

芦 涯
應 美
感 馬
笠 蓑
土 印

信州

蛙のねえし
飛胡蝶るまれば
梅の月君う露ををり

山 阜
眉 山
汝 菊

つゝつゝとまゝとまゝとまゝとまゝと
山花の梅水も月れ白くあり
雲雀野や牛ふ系子れ眠りけり
風の餘人の五月の芽打りけり

亮甫
鸞園
一之
伯先

まきの畑水は夏にかりりりり
まき雨やかかりりりりりりりりり
まき雨りりりりりりりりりりりりりり
まき雨りりりりりりりりりりりりりり
まき雨りりりりりりりりりりりりりり
まき雨りりりりりりりりりりりりりり

斗入
五芳
蕉雨
丈左

まきの畑水は夏にかりりりりりりりりり
まき雨やかかりりりりりりりりりりりりりりり
まき雨りりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
まき雨りりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
まき雨りりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
まき雨りりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

左竜
花明女
旭女

まきの畑水は夏にかりりりりりりりりり
まき雨やかかりりりりりりりりりりりりりりりり
まき雨りりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
まき雨りりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
まき雨りりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
まき雨りりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

画鶏
北川

まきの畑水は夏にかりりりりりりりりり
まき雨やかかりりりりりりりりりりりりりりりり
まき雨りりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
まき雨りりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
まき雨りりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
まき雨りりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

成美
貞松

奥棚倉

東都

子梅をくく新を仙に折るる

みちる

○

真金城

意せ流いんしあまきんや戸根

調瑄

苗代乃き流きあるりくくね

南陽

雨一ぬきあふく明きあき白く

中羅

併と折るあきく 後く桂

丸来

り山やあふ帰るる啼く後く

長寸

あこれ又よゆゆ

く新を雪あふ流切あ流せり

調雅

鶯路ハハハハたをれを新の香

燕脂

山十

山十

海苔れ魚の海吹越るる白あき

呂橋

月もてるる山里や雨あき降

乙調

花あきハハハハ花もあき花

冥々

あこのみくくゆ

あききや枯枝ききく新あきけ

秋夫

岸の中き花のくくあきあき

素郷

あきし眼ややくくあきあきこれ山

此得

南部

長濱

出羽左沢

二本松

本宮

栗津

重厚

班旭

騏道

月居

闌更

うけ的まをを村ぬく乙夫之
州とけよ風ふくまきまをれ
苔れ草月や世まの山鯨の窓
あまの海の明も飛短よう
此系中心曙をその中 まを柳

實も起れりものつとを
梅の風縁と海空も西もさう

追ねよ胡蝶やまをり休てハ

丈左

曙の格りまをり糸まをり雨

中庄釋 雙鳥

雪ふとまをり小川やうう
遅ふりや比なれ苗もまをり
市へ切もその時まの氣ふ
まの安くも春故畑やまをり
なまをり障子も遅ふ日乾
梅ふく限ぬく味もまをり
書部や切もまをり
山中や日ぬくまをり
正月やまをりまをり

蕪玉

稻波

梅暉

桃江

白扇

鳥味

里洲

鋪雪

雪下菴

正月やまをりまをり
山中や日ぬくまをり
書部や切もまをり
梅ふく限ぬく味もまをり
なまをり障子も遅ふ日乾
まの安くも春故畑やまをり
市へ切もその時まの氣ふ
遅ふりや比なれ苗もまをり
雪ふとまをり小川やうう

大上れを獲れ山なる不知卦川と
 よくけ龍川ををきむられ八景中
 の陰ふくはあ戸折ぬい柱くさきさ
 軒端あゝいある一廬あり五を蒼と云
 うらうら小磯あり方之天は八いと磨りぬ
 古き松をいそいせとくけさうらの極と
 ししあさな命を強くとあふ柳橋を
 容すうらとくら月あせく津なまを柱
 あられあまのうーかりさかしまり
 号井れ根ありそくくさる一水と
 流るて五志井の心を思ひぬらるふ
 神を志ひりつは福をうら海を或を
 文集乃いそいそりさう思此人の甚と
 懐くさうさ

何や董了孫了人志の記

丈左

春陰や舟の一被 友
 中一の物 志せれやに太 友
 藤生や夕日おほれて柳の春 友
 春るや馬をきなれ松の寶 友
 干向苔に二見の小貝海遊う 友
 楊枝里やうけしき森光あり 友
 破直を念り蛙固抱う申 友
 青柳や水り入新之小丈 友
 一方軍の書務あて春之川 友

おさる 可 友

能丸 珠 友

イセ 春 友

杜 影 友

舎 乙 友

飛前 中 友

イセ 銀 友

日ノ 洪 友

石部 亞 友

友人

對吟

川 鳧 其 細 ち 成 て 志 ち 心 ち 案

雪 見 れ 水 ち 山 ち 雲 ち ち

以 花 ち 瀧 ち ち ち 志 ち ち

只 ち ち 草 ち ち ち ち

鶴 布 の 樹 ち 色 ち ち 暮 ち 月

殊 ち ち 朝 の 柿 葉 ち ち ち

常 田 舟 ち ち ち ち ち ち ち

き ち ち ち ち ち ち ち

百 池

丈 左

池

左

池

秋 ち ち 久 瀧 ち ち ち ち ち 紙

志 ち ち 衣 ち ち 戸 ち ち 嵐 ち ち 泉

橋 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

昔 ち ち 織 部 ち ち ち ち ち ち ち

浪 ち ち ち 世 ち ち ち ち ち ち ち ち ね

八 ち ち 七 ち ち 雨 ち ち ち ち ち ち ち

た ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

い ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

山 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

左

池

左

池

左

池

左

池

左

草のかき入り在原の寺池

既り夏近けれハとて此句を

都くうまに加す

吉莖

鳩鳩鳴合をきもふり三葉可雙

別端ハ柿の葉落すのこ丈左

おやくせ惟子文れ夏々霜

ふり未を馬りやこり雙

うち号し一雁ありけをさし臥

い込雪を志きけれ小屏風左

中ふえり乳時をも案の父を侍左

重とゆくて旅の浅きし雙

眉と海菜火ありを燵一添左

ゆかさぬ急の雛を鳴さる雙

解をうりし古縁帯れぬ土不左

室のこふとの出飛入ぬ雙

菖か賣月おくれを燵重と左

在よしの喧花をさし涙ぬり雙

木と露の互ふおうち倒さ左

曉雲晴く阿蘇く神垣 翠
 折ふけと花の蒼や白く華 左
 眞若ふひ込門 夕暮風 翠
 陽光の小太刀一婦り持侍へ
 ちうく月く中夜より匠之 左
 水侍の袋追く片赤きや免 翠
 赤手拭くく赤紙取の生 左
 七人を鞍弓の糸くく子世也 翠
 色く夜くくは灰子の糸 左



公蹴り焚居き米を打こふし 翠
 滝拜くくくくくくくくくく 左
 かくれあき紙吹わりの伏見所 翠
 照松もくき青き葉あく 左
 くやあ金の杖も月くくくく 翠
 ・芋菓繪の醜の袖をかく 左
 貢ま根外にあやを致くモく 翠
 西もくくく裸あく 降 左
 栗無廻を小輪く川拾く 左



浅茅、右のふ、夕暮、蝶、
蝶、右紙、白妙、干、た、く、へ、
飛、こ、え、け、左、蝶、左、蝶、左

真、左、人の、去、り、夕、柳、加、列、蒼、虬
り、春、や、騎、射、東、都、宗、讚
雪、も、右、北、何、所、か、れ、と、暮、乃、春、月、峯
鈴、り、わ、は、な、れ、は、の、白、ひ、言、申、其、成
上、の、ま、の、旅、探、見、と、申、れ
木、下、陰、乃、小、あり、や、と、り、す
と、つ、花、の、ま、れ、い、の、ち、よ、れ、出、ら、一、年、菴

表、左、親、と、意、を

あ、の、子、れ、齒、り、河、邊、系、言、き、上、毛、宮、ナ、キ、鶏、路
牛、比、子、也、鼻、色、さ、清、木、も、と、花、宇
も、乃、葉、に、葉、か、り、て、日、暮、新、文、江
鳥、の、巢、り、不、破、る、む、を、決、見、日、光、又、二、紫、桂
鶯、の、は、ら、ひ、来、る、ら、り、井、下、瓦、一、七、律、重、和
春、風、れ、い、と、ち、り、を、案、ひ、う、山、拙、翁
奥、り、う、在、の、重、あり、よ、祭、を、春、川、床、学
松、山、り、春、雨、さ、れ、み、海、ひ、う、角、田、林

夕干浮又上丸山をあらうりま深

王步

雲出

茶煙

去り山の暮り暮色去りし之

真列水 秋龍

お戸中を家あつ新ハ明て梅乃ふ、

牙亮

梅を友う現うむふ即りよ、

寛繩

水を下く者の梅乃白ひう終、

菴心

蓋き次日の浦をよ余春乃風、

祖庸

春風うかきとあまきの風情と、

一至

朝雉の岳尾うか像横日ふ、

魯臺

一巻をきくの歌集をよむ人々

くさくさゆきよふかぬあつとつ

こころよこしこころよこし世想

月乃中まな人の獨をよみて

あつと一時深りおれしとむ

あつとよりあつとあつとあつと秋の

Handwritten text in cursive style, consisting of three vertical columns of characters.

多岐八五

多岐八五

多岐八五

蕉門俳諧書林

京三條通寺町西江入

菊舎太兵衛

